論　説

品質工学会「ビジョン30に向けた活動報告」(2)
―ビジョン35を構想するためのビジョン30長期計画の活動の総括と今後の課題―

Robust Quality Engineering Society "Report on Activities toward Vision 30" (2)
― Summary of the Activities of the Vision 30 Long-term Plan for Envisioning Vision 35 and Future Tasks ―

吉澤　正孝*
Masataka Yoshizawa

(2022年10月号の(1)から続く)

4.1.5　知識の構造化

この活動は，品質工学会で研究された成果を形式知化して外部に提供し，社会に貢献すると同時に学会の認知レベルの向上を狙ったものである。2017年の企画段階では以下の活動を計画した。ベストプラクティス集の発行，マネジメント事例集の発行，専門領域に対する事例集，ネットを通じた標準テキストの発行，田口の考え方の構造化である。それぞれに対しての活動は以下のようである。

(1)　ベストプラクティス集の出版

(a)　活動内容

この活動は，品質工学会で優れた成果をまとめ書籍出版するという企画である。残念ながら5か年の後半まで活動リソースが割り付けることができなかった。2021年になり，審査表彰部会内の検討から，過去30年において，公益財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞論文賞と発表賞の受賞論文がベストプラクティスとなり，書籍として出版できることが提案された。現在，200編を超える論文をリストすることができる。受賞論文は，会誌に掲載された論文の中でも優れた研究でもある。読者の関心と学会としてのメッセージを含めてカテゴリー化しシリーズで出版を企画する活動を開始した。V30の1つの記念として2023年度から漸次出版することを計画している。

(b)　まとめと課題

ここ5年の学会活動の結果が体系化された知識として形になって出てこなかった。しかし，品質工学に関わる体系化についての準備ができていると考える。解析ソフトの使い方，そして後に述べるように田口の考え方の構造化，品質工学事例データベースの作成，田口論説や著書の目録の整理などがある。5年間の活動を刈り取るための準備は着実に進んでいると考える。

近年，ネット環境での出版の機会も多くなり，少ない経費で誰でも出版できる機会が増えた。また，ネット環境では絶版の機会が小さくなることもメリットと考える。ネット環境を利用した出版を基本として活動していくことを今後の課題として取り上げる。

(2)　マネジメントのための出版

(a)　活動内容

マネジメント面における品質工学の利用は，品質工学を戦略の1つとして実際に企業などの組織で展開をするときのヒントを与える上でも重要である。過去，経営者懇談会の研究報告や山口賞や日本規格協会理事長賞の受賞の事例で読み取れるようにマネジメントに対する優れた事例がある。またV30の関連でイノベーションを中心とした議論が繰り返されてきた。それらの成果をまとめ技術マネジメントの考え方と方法論として整理し，出版を計画した。しかしながら，リソースなどの配分ができず具体的は活動には結びつかなかった。

(b)　まとめと課題

* クオリティ・ディープ・スマーツ(責)